

藤原姓
岡本

家紋笹龍膽
高百式人扶持
(諸家系譜は百俵式人扶持)

紀伊國海上郡本渡村之郷士岡本
助左衛門浅野但馬守在國之時同国
熊野郡代但馬守轉封により従て
安藝國に移る

某

太夫
岡本助左衛門

重俊

岡本善右衛門

豊久

岡本善悦

十五歳之時紀藩にて元禄十六未年
御側坊主^二召出され○其後江戸にて
奥勤○宝永二酉年 御本家つかせ
給いし後も前におなし○享保
三戌年御本丸へ召寄せられ五月
十三日奥坊主組頭廩米四拾俵式人
扶持○同四亥年十月朝鮮人来聘
之時客館にをいて翠軒と画法
を論し翠軒歎賞之餘豊久か
画をこいて謝書を贈るにより
則 台覧にそなへけるを家に存
せり○同十一年加秩ありて実
禄百俵となる○同十九年奥州
軍記之御卷物之写命らる明年
十二月功成りて進?し褒銀廿枚
を給ふ○元文元辰年鶴岡八幡
宮の歌仙の額を画しめられ銀廿枚
給りて褒せらる○同二巳年十一月
御同朋格となり○寛保二戌年五月
宿直をゆるさる○延享二丑年九月
西丸へ御供○同三寅年三月御休息
間之障壁を画しめられ褒金三十二月
拾両を給ふ○寛延元辰年朝鮮
人来聘のときその画工に画を命
せられ豊久をしてつかさとしめ
られしにより?し本願寺に??
韓人と絵事を談しければ画工
より古版耕織図壺冊筆墨扇
子等ををくる則 台覧にそなへいま
なを家に存す○同三午年八月八構
御法会之儀注の画輪を命せられ
服老装銀廿枚を褒賜せらる○そののち
さきに

有徳院殿より御みつから画かせ給いし
鷹の画賜はりしことを

浚明院殿きこしめされ 御むねありて

台覧にそなふ○宝暦元未年七月

より御本丸勤○同二申年六月去冬

有徳院殿の尊顔を画奉りし賞とし??

金二枚を賜はる○同年七月

大納言殿御画事に伴すへきよし命

せられ種々の照本かきて奉る

○同十一年八月四日

浚明院殿御みつから画給いし野馬

の画を給はり則装^{■はころもへんに黄}して同月

廿一日 台覧にそなへ○同十二年六

去秋

惇信院殿尊顔を画奉し賞として

褒金を賜ふ○豊久としころ諸方に

購求して古画を模写し或は命に

よりで凶出せし粉本あまた家に

おさめしかは

浚明院殿もはら絵事を好せ給いし

をもてことごとくかきて奉るへき

命をかうふり漸々にかきて奉る○^{よし}

豊久数年画の事奉りければ褒賞

給ふわしはしはなりまたとし毎に

御めしの御服御羽折或時服金を給へり

○明和四年九月廿一日死七十九歳

赤坂成満寺^二葬

○豊久襄さの後、弟子彦根善意

久微もはら絵事をたすけし

により明和四亥年七月十七日豊久

かこふままに新にめし出され廩米月俸

給りて表の坊主にかへられ後奥坊

主を命せらる

以下略